

モラル会の皆さま

ご無沙汰しておりますが、お元気でしょうか。

私は、9月7日からカンボジアに滞在しています。

今回の滞在の目的は二つありました。

一つは、カンボジア王立農業大学（Royal University of Agriculture, RUA）の学生・卒業生のために日本での「研修プログラム」の仕組みづくりをすることです。

RUA側の要望で「研修プログラム」となっていますが、実際には日本への「出稼ぎ」です。

その背景を説明します。

RUAは国立の農業大学です。RUAで学んでいるのは農村出身の学生が多く、プノンペンにある他の国立大学や私立大学と比べると、貧しい家庭の出身者も多いのが特徴です。

ですので、学生が首都プノンペンへ出てきて大学生活を続けるのは本人にとっても田舎の家族にとっても経済的に大きな負担となっており、経済的な事情で学業を中断しなければならない学生も多くいます。

RUAは、貧しい学生たちが大学での学業を無事に修了できることを望んでいますし、経済的な事情で大学への進学を諦めている優秀な学生が高等教育を受けられるような仕組み作りを望んでいました。

また、カンボジアでは国立大学を卒業しても就職することは簡単ではありません。それはRUAに限らず、カンボジアの他の大学にとっても大きな問題となっています。

そのような背景があって、RUAは学生が在学中に「農業研修」という名目で海外の農業の現場で働いて給料を得、そこで貯金をして大学へ戻り、勉学を続けられるような仕組みを作っています。

また、学部修了後に日本の農業現場で働いて貯金をし、帰国後に農業や事業を営むための資金にできるよう、卒業後のプログラムを考えています。

そのために、RUA に日本語クラスを開設し、日本の農業現場で必要となる基礎知識と基礎技術も事前に研修できるシステムを作ります。

現在、日本の人材派遣会社や地方自治体（大分県国東市など）と話し合いをしており、早ければ今年の12月にMOU（プロジェクトのための覚書）を交わすことになると思います。

このプロジェクトでは、なによりも第一に学生たちが安全で有意義な（十分な貯金ができる）出稼ぎ環境を作ってあげなければなりません。そのために、プログラムのアドバイザーとして参加することをRUAから求められてカンボジアに来ています。

現在のところ、日本での研修中に必要な経費（支払い）を引いたのち、日本円で10万円程度は貯金ができるような仕組みにしようと準備をしています。

このプログラムは、将来的にはRUAだけではなく、カンボジアにある8校の農業系高等教育機関を対象に行えるようにしたいとカンボジア側は考えています。

11月の初めに、RUAから依頼を受けて学生たち約200名に、このプログラムについての説明会を持ちました。

予想を超えて8割近くの学生がこのプログラムに参加したいと答えました。とくに女子学生の積極性が目立ちました。

現在、プログラムを実施するために準備中であることを何度も念を押したのですが、学生たちからは「いつから日本語のクラスが始まるのか」「いつから申し込めるのか」「申し込むためには、これまでの成績が関係するのか」「女子でも申し込むことができるのか」といった質問が続きました。

もうひとつの目的は、以前から懸案になっていた「情報発信の場としての食堂づくり」です。

今回、RUAの正門のすぐ脇に貸店舗が出ていました。

理想的な場所だったので、すぐに借りる契約をして食堂を作り、11月16日にオープンしました。

基本にお金のない学生や裕福でない人たちのための食堂ですから、一食が一律3000リエルです。日本円でいえば75円です。

それでも、「2000リエルで食べさせてもらえないか」と聞いてくる客がいます。そんな時は2000リエルで食事を出します。

営業時間は、朝6時から売り切れまで。

近い将来、小さな児童文庫を作り、その地域の子どもたちに英語や日本語の教室、勉強をみてあげる教室も開く予定です。

この地域は貧しい家庭や地方から出稼ぎに来ている若い世帯が多いです。

現在のカンボジアは、教師に心づけを払わないと成績にも影響するようなことさえある環境ですが、子どもたちが勉強だけではなく、自分たちの暮らす社会や、世界についての関心を持ってくれるよう様々な活動を工夫したいと思っています。

食堂は、立地の良さ、食事のおいしさもあって評判はよく、開店して10日しか経っていませんが、毎日、食べに来るお客もいますし、今後、しっかりと固定客がつけば経営的には自立できるでしょう。

しかし、立ち上げからの数か月は手助けが必要だと考えています。

坂根愛生